

## 2016年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、接続する学校の教職員でもある先生方に、専門的な視点からのご意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、ホームページ上で公表いたします。

2016年度は、「教育課程・学習指導」「生徒指導」「保健管理」「保護者との連携」「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を評価項目に設定し、評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からのご意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 97.9%、保護者 64.8%、教員 100%となっております。

各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果も参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた具体的方策を示し、自己点検・評価としました。また、初等部、高等部、大学の責任者に、ありのままの中学部の教育を知っていただき、そこでのご意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は学校評価を通じて自らその課題を探り、その課題に向き合って改善することによって、より内容のある教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2016年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

2017年3月10日

関西学院中学部

部長 安田栄三

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

#### 中学部がめざす教育の目標

1. キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切にし、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
2. 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来高等部、大学において、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

### 2016 年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
  - ②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
  - ③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
  - ④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性がないといけない。そのため保護者と教職員の連携が密になるように設定している。
  - ⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
  - ⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
- 以上の6項目。この6項目は 2013 年度より継続して取り上げている。

### 2016 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての教員間の共通理解と連携】	自己評価	A
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従前から「学習ガイドブック」を作成し、教員間でも教科目標、学習方法等、学習への基本姿勢について共通理解が得られるようにしている。</li> <li>●中学部における定期試験だけでなく、学力推移調査、GTEC、学力・学習状況調査等の結果を分析し、その情報を全教員で共有できるようにしている。</li> <li>●学年担任団の日々のミーティング、全教員の指導会議等を通じて、各教科の授業概要や個別生徒の諸状況につき、情報交換を行っている。</li> <li>●教員アンケート質問1「教員は、教育課程の全体を理解している。」では、昨年度、教員の肯定的評価が低下していたが、本年は約14%向上し86.5%の肯定的評価となった。上記の取組の効果が見られたものと考えられる。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従前からの取組を継続的に行い、各教科が情報交換を積極的に行い、他教科からの助言も積極的に取り入れていけるような環境を整備する。</li> <li>●「学習ガイドブック」の改訂を通じて、自身の教科だけでなく、他教科への理解を深めるとともに、教科横断的なカリキュラム作成を計画する。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部試験である学力推移調査（国語・数学・英語）により、個別生徒の学力推移を確認するとともに、過年度の学力推移、また他校との比較を行い、客観的学力の把握を行っている。</li> <li>●3年生対象の全国学力・学習状況調査の結果も、当該教科（国語・数学）とともに、学年でも生徒の学力把握に活用している。</li> <li>●英語ではGTECを実施し、3技能（読む・書く・聞く）について客観的な学力把握を行っている。</li> <li>●上記、2つの試験結果を高等部とも共有し、6年間の追跡調査が可能である。</li> <li>●アンケート結果では生徒アンケート質問3「中学部は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている」（84.6%）、保護者アンケート質問4「中学部は、生徒の学力や体力を適性に評価している」（93.3%）、教員アンケート質問2「教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている」（86.5%）と、いずれも肯定的評価が高い。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本年までの取組を継続的に行い、客観的での的確な学力把握を行うとともに、それを踏まえた学習計画を行う。</li> <li>●外部試験が行われていない、社会科、理科について外部試験導入の可能性を探る。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	A
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業をめざしての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従来通り、全教員に対し一定の自己研修の時間と研究費用を確保し、教授力の向上、教科に関する素養の向上を図っている。</li> <li>●国語・社会・数学・理科・英語の5教科は、学習指導要領の所定時数より数時間多く配当し、演習時間を確保の上、基礎学力、応用学力の向上を図っている。</li> <li>●英語では自主教材を開発し、あるいは分割授業、双方向授業を行いながら、4技能（読む・書く・聞く・話す）の向上・定着を図っている。</li> <li>●読書科でも過去半世紀にわたる経験を活かしつつ、教科横断的、統合的学力の向上をめざしている。</li> <li>●この数年来、生徒・保護者の多様化に伴い、教科教育以外の学級経営・生徒指導・クラブ活動等への教員の負担が年々増加の一途を辿っている。そのため、教材研究、自己研鑽の機会が減少しているのは否めない。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員の教材研究、自己研鑽の機会を確保するため、校務の効率化を行う。</li> <li>●教員間での教授法の伝達・共有を図るとともに、教科内での教授力向上のための諸方策を検討する。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	B
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各教科、基礎学力の定着とともに発展的・応用的内容の学習を行うことにより、興味・関心のある生徒の要求にも応えられるようにしている。</li> <li>●学力差が大きくなっている状況で、成績上位の生徒の満足度が低いと、アンケート結果から推測できる。</li> <li>●学習に躓きのある生徒のために、数学・英語では週に数回の補習を行っている。また、夏期休暇中には関西学院大学教職教育研究センターの協力を得て、大学生ボランティアによる数学・英語の学習会を行っている。</li> <li>●各学年、定期試験前には、自宅学習の習慣が確立していない生徒のために、放課後学習会を行い、自学自習の時間を確保している。</li> <li>●生徒アンケート質問6「勉強でつまずいた時、補習などの機会がある」(86.9%)、教員アンケート質問7「中学部は、必要に応じて補習など特別な学習機会を提供している」(89.2%)と肯定的評価が高い。保護者アンケート質問5「中学部は、補習など特別な学習機会を適切に提供している」(77.1%)も昨年度より7%程度肯定的評価が高くなってはいるが、生徒・教員よりも低い。補習に期待する保護者の評価の違いはあるが、いずれにせよ、到達度の低い生徒が増加傾向に有り、それに対応するための方策が求められている。人的な面も含め充実が望まれる。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習意欲の高い生徒、学力の高い生徒の要求に応えられるよう、同時に、到達度の低い生徒への対応という背反した必要性に応じるための方策を模索する。具体的には、学習内容の精査に加え、英語以外にも分割授業、習熟度別授業の導入を検討する。</li> <li>●補習のあり方にも工夫を加え、一括の補習でなく、到達度に応じた補習のクラス分けも検討する。</li> <li>●教員アンケートの結果では、知的関心の喚起への項目が昨年と比べ、極端に低下しているが、この原因を早急に究明し、対応していく。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A+
目標	生徒会など自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課(学習)を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●委員会活動、特別活動、課外活動を通じて自治意識の向上を図っている。各学級ホームルームでの意見や意見箱への個人の意見が生徒会を通じて学校活動に反映される。</li> <li>●クラブ入部率は各学年95%以上で、文化部・運動部ともにクラブ活動は盛んである。</li> <li>●学習と課外活動との両立を図るため、定期試験前1週間のクラブ停止としている。また、学習時間とともに、家庭生活にも配慮し、夏期休暇中のクラブ活動日数は18日まで、冬期休暇は原則クラブ停止としている。</li> <li>●クラブによっては、成績不振者の活動参加を一定期間、停止し、学習時間を確保している。</li> <li>●「学校が楽しい」「中学部の教育に満足している」との評価は、生徒・保護者ともに常に高く、課外活動の充実がその要因のひとつと考えられる。</li> </ul>		

今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治活動の充実、課外活動の充実については、今後とも継続的に行っていく。</li> <li>●ただ、学習とクラブの両立について、生徒のアンケート結果では、難しいとの回答が昨年よりやや増加している。成績不振者にとっては、クラブ活動が現実的に学習の支障になっていることもあるため、学習と課外活動のあり方、参加形態なども引き続き検討していく。</li> </ul>
-------	--

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	A+
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織してその企画・運営を自主的に行っている。各行事の実行員会は募集人数を大幅に超えて委員の応募があり、積極的に取組む生徒が増えている。</li> <li>●代議員会および各委員会活動の活性化に重点を置き、生徒会活動およびHR活動を中心に自主自律の精神を育てている。</li> <li>●保護者アンケート質問 11「中学部は、生徒の自主自立の精神を育成している」では肯定的評価が 89.0%と高い。また、今年度は生徒会役員を中心として充実した自治活動が行えており、昨年度若干低かった教員の肯定的評価も、教員アンケート質問 14「クラス担任は、学級活動において生徒の自主自立の育成に努めている」で 72.2%から 81.1%に上がっている。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織してその企画・運営を自主的に行わせ自主自律の精神を育成していく。</li> <li>●生徒会・委員会活動をさらに活性化し、生徒に自ら判断し行動できる力を身に付けさせる。</li> <li>●来年度より複数年にわたって生徒会を担当する教員を置き、活動の継続性を高める。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	B
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。</li> <li>●「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある」の項目で肯定的評価が毎年低下している。これは、クラス数の増加に伴い教員数が増えたことと会議日が隔週になったことで教員間のコミュニケーションが難しくなったことが背景となっている。</li> <li>●昨年度問題行動を指導した後に改善が見られないケースが見受けられ、指導方法について改善を図ってきた。保護者アンケート質問 12「中学部は、生徒の問題行動などについて適切に対応している」では、昨年度若干低かった保護者の肯定的評価が 75.6%から 79.9%に少し上がっている。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員間での「情報共有方法の構築」「生徒指導についての意思統一」について指導部内に検討会議を設けて対応策を策定し、現在試行を始めたところである。今後はこれを評価し改善を進めていくこととする。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	B
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒たちが健康で安全な生活を送ることができるよう健康診断を実施し事後措置・管理を行っている。また定期的に学校医とのミーティングの場を設け、事後措置をはじめ健康面で配慮を要する生徒について指導、助言を受けている。</li> <li>●保健室来室者が多い状態が続いており、ここ数年は特に心理的理由による来室者が増えている。生徒一人ひとりを理解し、支援していくことは簡単にできることではないが、保護者、担任、学年主任、カウンセラー、養護教諭が情報を共有しながら、生徒の支援に取組、個々の課題をサポートできるよう努力している。その結果、健康状態の把握、教員間の情報の共有・連携について、生徒アンケート質問 12「中学部は、自分の健康に関する情報を適切につかんでくれている」で肯定的評価が、79.7%（昨年度は79.4%）、保護者アンケート質問 13「中学部は、生徒の健康に関する情報を把握し、適切に対応している」で肯定的評価が、85.5%（昨年度は85.8%）、教員アンケート質問 18「中学部は、養護教諭・カウンセラー・教員間で情報交換や連携を適切に図り、生徒の健康状態の把握に努めている」86.5%（昨年度は90.9%）との肯定的評価であった。</li> <li>●一方で生徒の心身の健康相談の場について、生徒アンケート質問 13「中学部には心や体の健康について相談する場がある」での肯定的評価が 66.0%（昨年度は 65.2%）にとどまっており、心身の悩みを抱えた時に気軽に相談できる環境を作ることが課題であると認識している。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き支援を要する生徒に対し、クラス担任、学年主任、カウンセラー、養護教諭で情報共有しながら、サポートできるよう努力していく。</li> <li>●気軽に相談できる環境として、健康相談日を設け相談できる時間を確保する。</li> <li>●今後も開かれた保健室をめざし、生徒たちが相談しやすい場所となるような雰囲気作りに努める。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●怪我・急病発生時には迅速に、適切に処置が行えるよう努めている。また、病状の報告やその対応については保護者と連絡、相談しながら行うよう心掛けており、生徒アンケート質問 14「中学部は、怪我や体調不良の時に素早く適切な対応をしてくれる」で 85.7%（昨年度は 89.2%）、保護者アンケート質問 15「中学部は、生徒の怪我及び急病発生時に迅速で適切な対応をしている」で 92.4%（昨年度は 89.5%）、教員アンケート質問 20「中学部は、生徒の怪我及び急病発生時に迅速で適切な対応をしている」で 94.6%（昨年度は 87.9%）との肯定的評価を得ている。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も怪我・急病発生時には適切な処置に努め、病状の報告や対応について保護者と連絡、相談しながら行っていく。</li> <li>●怪我をした際にはその要因を生徒と共に振り返り、怪我の予防について考え、生徒の意識を高めていく。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【学校運営についての保護者との協力状況】	自己評価	A
目標	P T Aと協力した学校行事の運営／教育内容に関する保護者との意見交換		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全校行事のサポートとして体育大会、文化祭での中学部P T Aグッズ、飲食物等の販売、新入生保護者を迎える各地区歓迎会の開催がある。その他にもP T A聖書を学ぶ会、P T Aだよりの活動など独自の活動を展開している。</li> <li>●保護者アンケート質問 18「中学部は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている」で、教育内容に関する意見交換ができていないと思っている保護者が16.8%と、昨年度の15.3%より微増した。</li> </ul>		
今後の方策	●教育内容に関する保護者との意見交換ができる時間を、これから、さらに積極的に設けていく必要がある。		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施やP T Aとの協議会の運営状況】	自己評価	A
目標	P T A幹事会等の適切な開催／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年5回の常任幹事会、幹事会を開催しており、五役会（役員会）は新しい懸案事項が出てくるごとに開催している。</li> <li>●年4回開催されるP T A集会では、全体集会の後に、クラス集会で懇談をするようにして、保護者が担任に対して話しやすい雰囲気をつくっている。また、クラス担任による保護者面談を行っている。</li> <li>●運動部・文化部に関わらず、保護者との懇親会や送別会などを、ほとんどすべてのクラブで行っている。</li> </ul>		
今後の方策	●これまで通り、保護者と多くの時間を共有しながら、共に考え、話し合える取組を継続して行っていく。		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有／キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キリスト教主義教育は毎日の礼拝や聖書科授業を中心に全学的な教育プログラムとして展開している。また、行事等を通してその理念を生徒、保護者、教職員が共有できるように機会を設けている。特に、保護者に対してはP T A集会の礼拝や「聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義教育に接する機会を設けている。</li> <li>●生徒アンケート質問 15「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる」の肯定的評価は82.8%（昨年度は81.5%）、質問 16「キリスト教に関する理解が深まっている」肯定的評価は78.2%（昨年度は74.8%）、保護者アンケート質問 19「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている」の肯定的評価は96.1%（昨年度は95.7%）といずれの数値も昨年度より高くなっている。特に保護者の評価がここ3年間で最高値になっていることが注目される。いずれにしても継続的に高い数値であり、キリスト教主義の理念の共有が定着していると分析できる。それに対し、教員アンケート質問 25「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している」の質問に対する肯定的評価が62.1%（昨年度は60.6%）と生徒や保護者と比べると低くなっている。</li> </ul>		

今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●創立当時から受け継がれ、建学の精神であるキリスト教主義教育は、中学部の原点である。その精神を大切に守り継ぐと共に新しい時代を切り拓くキリスト教主義教育のあり方を検証し、具体的な教育プログラムを展開していかねばならない。</li> <li>●特に新任の教職員に対して、その理念を共有するための研修や学院内のキリスト教主義教育にかかわる行事等への参加を呼びかけていかねばならない。また、教職員がキリスト教主義教育を学ぶプログラムの設定を推進していかねばならない。</li> </ul>
-------	--

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】	自己評価	A+
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を学校の重要な柱に据え、礼拝を中心として、生徒と教職員が精神的に育成するプログラムが実施されている。</li> <li>●礼拝の奨励者には教員に加え、学外の各分野からも多くの奨励者を招き、いのち、人権、平和などをテーマにした幅広い主題で話を聴いている。また、生徒たちが自主的に取組む毎月平均6回開催される生徒礼拝や毎週1回の早天礼拝も定着している。生徒たちが積極的に礼拝に対してかかわる姿勢が継続的に見られる。</li> <li>●生徒アンケート質問 17「礼拝では学内外の様々な人の話を聴くことができる」の肯定的評価は92.8%（昨年度は92.3%）と昨年度に引き続き高数値を維持している。生徒たちは毎日の礼拝での奨励を通して学ぶ姿勢を習慣化していると言える。また、教員アンケート質問 26「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている」の肯定的評価は89.1%（昨年度は84.8%）と前年度から大きく数値が上がっている。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いのち、人権、平和、道徳教育などのさまざまなテーマを、礼拝の奨励を通して展開できるように、できる限り広い分野で活躍されている講師を招き、話を聴く機会を計画する。</li> <li>●クラス礼拝や学年礼拝も伝統を大切にしつつ、しっかりとした形での継続を考える。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【英語・国際理解教育】	自己評価	B
目標	英語教育を通しての、世界への視野の拡大／英語教育を通しての、ことばへの意識の向上と言語運用能力の育成／国際理解の感性育成のためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネイティブの教員との連携を図りながら授業を展開するとともに、英語検定の受験の奨励などで言語運用能力の育成を図っている。</li> <li>●3年生時にはインドへの親善訪問旅行、オセアニア地域への英語研修旅行、国際教養大学（秋田県）でのセミナーなどを実施し、英語力の向上とともに国際理解の感性の育成を図っている。</li> <li>●このような取組に対する評価はおおむね高いが、他の評価項目に比してはポイントが低い。これは、外部業者テストでの成績が伸び悩んでいること、また、研修旅行に参加する者が今年度は少なかったことなどによるものだと考えられる。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常の授業ではさらに外国語や国際理解への関心が高まるような生徒へのアプローチの仕方などを模索していく。また、研修旅行に関しては、当該学年の生徒がクラブ活動で活躍すればするほど、公式戦やコンクールで研修旅行に参加でき</li> </ul>		

	ない者が増える、世界各国でテロ事件が増加している現状の中では、海外へ出て行くことへの足を踏む者が増えるなど、構造的、社会的な要因にどう対処していくかが課題である。
--	---

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】	自己評価	A+
目標	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キャンプ・体験学習は中学部が長年大切にしてきた伝統的行事の1つである。1年生時は入学直後の千刈オリエンテーションキャンプ（2泊3日）、2年生時は関西学院が所有している岡山県にある無人島の青島でのキャンプ（4泊5日）、3年生時は修学旅行（4泊5日）と、各学年特徴的な校外宿泊行事を設けている。</li> <li>● 1、2年生時の飛鳥・奈良での校外学習、3年生時の修学旅行では、事前に生徒に行動計画を練らせ、班行動を中心とした自主研修も組み入れている。</li> <li>● 毎年この項目についての評価も非常に高いが、今年度はさらに保護者・教員においては評価が上がり、肯定的評価が97%を超えている。これは共学化3年目を迎え、全ての行事において、女子に対応するプログラムが整ってきたことがその要因の一つとして考えられる。</li> </ul>		
今後の方策	● 中学部の伝統であるこれらの取組を維持、さらにプログラムの充実を図る。		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【人権・平和教育】	自己評価	B
目標	礼拝や講演会を通じた人権や平和に関する感性と知性の涵養		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 聖書科・社会科の授業、教員や様々な分野から招いた講師による日々の礼拝のお話し、年2回設けている人権教育講演会などを通じて人権や平和に関する感性と知性の涵養を図っている。</li> <li>● この項目の評価も概ね高いが、ただ生徒、保護者、教員の三者の評価が分かれている。保護者においては、保護者質問28「人権や平和に関する生徒の感性と知性を育成している」で肯定的評価が89.9%と非常に高い。これは中学部の取組そのものに対する評価だと受け取れる。それに比して、生徒質問26「学校生活を通じて人権や平和について学ぶことが多い」で82.9%、教員質問34「礼拝や講演会により生徒の人権や平和に関する感性と知性を養っている」で62.2%であり、教員においては昨年より評価が下がっている。</li> </ul>		
今後の方策	● 上記のように肯定的評価のポイントに差が見られるのは、取組そのものは評価できるものの、実際に人権に関する講話などを聞いた生徒や教員は、その内容については高い評価をしていない時もあったと考えられる。生徒への講話の内容や講師の選択等に関しては、より中学生の問題意識に適ったものにしていくことが課題である。		

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

## 総合評価

- 中学部の中心となる、教員が日々生徒の前で行う授業に関して、当然のことながら毎年同じことを行うのではなく、いかに高いレベルを維持しながら、わかりやすい授業を行うか、次年度に向けての創意工夫が常に問われている。様々な教材の開発、客観的な視点から見るための外部テストの活用、同時に従来からの学力推調査や英語のGTEC、体育の運動能力テストなどを通じて、一人ひとりが生きる力となる柱としての学力、そして人間力をつけさせることを、これからも大切に考えて取り組んでいきたい。人間力の最高峰としての誠実さを揺るぎないものにするために、日々の学習と生活を、よりしっかりとしたものにしてほしい。
- 中学部生活において重要な部分を占める、自らが選択した課外活動では、今年度多くのクラブが県や近畿大会、全国大会で活躍することができた。それぞれの活動の更なる充実により、生徒たちが高い目標を持った楽しい学校づくりを、今後も引き続き実現していきたいと考える。  
生徒指導面に関しては、生徒数も増え、男女共学ということもあり、昨今様々な配慮が特に必要となってきている。教員同士はもちろん、保健室やカウンセラーの教員ともお互いに情報交換して、生徒にとって居場所のある居心地の良い学校であるように、今後もより努める必要があるだろう。
- キリスト教主義の実践について、中学部として守ってきた毎日欠かすことのない礼拝を大事にしている姿勢が生徒たちにも伝わっている。そのことを、当然これからも伝統として守っていきたい。また特色ある教育の実践としては、読書、図書館教育では、大学生や社会人になっても通用する、将来を見据えての課題研究の学びが常に実践されている。生徒たちの主体的な学びの成果は、長い時間をかけて完成する文字数2万字にせまる卒業レポートのみならず、社会の中で評価を受ける文芸コンクールにおいても多数の表彰者を出していること、及び肯定的評価が90%を超えていることからわかる。さらに自然の中でのキャンプや飛鳥、奈良での校外学習、長崎への修学旅行などの体験学習での本物との出会いを通じて、より生徒たちが人間的に成長できる学びを、これからもしっかりと続けたいと考える。原爆の悲惨さをしっかりと語り継ぐことができる若者たちであってほしいと願う。
- 中学生時代の3年間は、生徒たちが様々な壁にぶつかりながらも、大きく成長する時期である。良いところは思いっきり褒めて、間違いがあれば本気で向き合っ、共に成長できるように努めたい。中学部教育は盛りだくさんの、ある意味ハードな教育であるが、困難や苦勞を乗り越える経験も、人として生きるために大切となる。将来生徒たちが社会に必要とされる人間として生きていけるように、大人が本気でバトンを渡せる学校でありたいと考える。

## 2016年度の評価をふまえて2017年度に予定している評価項目、テーマ等

- 評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、以上の6項目を継続して取り上げ、課題をはっきりさせて取組みたい。

## 第三者評価／学校関係者評価

### <教育課程・学習指導>

- 学習ガイドブックを作成し、全教員が共通理解のもと学習指導に取り組んでいることの効果は大きいと考える。
- 様々な会議を工夫して実施していることで、教科、領域を問わず全教員が個別の生徒についての情報を共有できている。
- 外部試験等の実施により、生徒の客観的な学力の把握に努め、日常の授業の工夫や改善が行われている。
- 教育課程編成を工夫し、基礎学力及び応用学力の向上を図るための授業時数の確保に努めている。
- 中学部の特色でもある読書科の取組により、生徒が読書に親しむ態度が形成されていると同時に、教科を超えた探求的な学習を行う力の育成が行われている。

●発展的な学習の実施や補習の実施など、個々の生徒の学習状況にあわせた学力向上の取組が行われている。

●ほとんど（95%以上）の生徒がクラブ活動に参加しており、そこからも「感謝、祈り、練達」の教育理念の具現化を図ろうとする学校及び生徒の意欲や姿勢が分かる。

#### 〈生徒指導〉

●生徒会活動が活発に行われており、各行事等も実行委員会を中心に積極的な生徒の関わりがある。意欲を持った生徒による主体的な学校行事の運営や参加の状況が伺える。

●問題行動については、学年と生徒指導部さらに管理職が組織的に対応し、解決を図っている。

#### 〈保健管理〉

●心理的要因での保健室来室者が増加してきているが、保護者、学校、カウンセラーが有機的に連携して対応するシステムの構築が進められている。

#### 〈保護者との連携〉

●PTA役員会、PTA集会、クラス集会等、様々な機会を通じて保護者に学校への協力と学校理解を促す取組を工夫している。

#### 〈キリスト教主義教育の実践〉

●毎日の礼拝、聖書科授業を学校の重要な柱として、キリスト教主義教育についての理解を深め、生徒の人格の完成にむけた取組が行われている。

#### 〈特色ある教育の実践〉

●ネイティブ教員を活用し英語授業の充実が図られており、生徒の言語運用能力をさらに伸ばすことができるよう努めている。

●各学年が工夫した特色ある体験活動が実施されており、実際の体験を通して生徒の人間関係の構築や自主的に活動する態度の育成が図られている。

●聖書科や社会科の授業をはじめ、全教育活動を通じて生徒の人権感覚を磨き、平和を希求する態度を育む取組が行われている。

実際の中学部の様子から、生徒の真剣な学習や生活の様子、そして教職員の生徒に対する本気度や熱意を強く感じる事ができた。

中学部では、卒業レポートの作成を行っている。書き上げたレポートだけでなく、それを書き上げる過程を中学部が大切に指導に当たっていることが分かる。その姿勢は中学部における学びの姿そのものであると考える。

中学部が学校をあげて、将来の人格の完成に向けた人間力の育成に努めていることが伺える。

●全般的に保護者からの評価が高く、中学部教育への理解と信頼があることが伺うことができます。生徒、保護者ともに学校生活への満足度が高いことが何よりの評価と考えます。そして、根幹となるキリスト教主義に基づく教育が、しっかりと中学部全体に浸透し、それが中学部につながる人に共通理解されていることが中学部教育の在り方の証明です。

●学習面において、学力保障のための手立てを整え、その保障のための機会を設けて手厚く指導されていることが、生徒・保護者・教員のアンケート結果から読み取れます。ただ、学力差が大きくなっている中で、上位層のニーズを満たしつつ、下位層の手当にもあたらなければならない難しさがあることが伺われます。

●外部テストによる客観的評価結果に対しても教員が高い関心を示し、その結果を共有し有効に生かし、授業の質を高めようとされていることも感じられます。ただ、PTA活動も盛んである中学部で保護者と教員間のコミュニケーションはよく取れているように見受けられますが、教育内容に関して保護者との意見交換が十分でないとの認識がありますので、教育内容についての懇談の機会が増えることを期待いたします。

●生徒会活動を始めとする自治活動が自主的に、自律的にできていると生徒自身も感じることができている点が評価できます。また、クラブ活動にも力を注ぎつつ、両立ができる環境を創り出そうと

されていることが生徒・保護者・教員共に認識されていますので、この状態を損なわないように引き続きこの環境の維持に努めていただきたいと思います。

- 生徒指導面においても規律の取れた指導がなされ、生徒もマナーを守るなどの意識は高いですが、カウンセリング的な関わりの部分は今後ますます重要性が増してくる中で、その対応が急がれると思われまます。
- 中学部の伝統でもあるキャンプを通しての教育活動の意義は、中学部全体にしっかりと浸透していることがわかりますが、人権教育においては、教員が十分できていると感じ取られる取組などを工夫されることを望みます。
- 男女共学も落ち着いてきてはいるものの、定員増、クラス増や女子へのこれまでとは異なる対応に伴い、これまで予測できない事態も生じていること、対応すべきことが増え、教員の負担が増える一方で教材研究や生徒との関わる時間をどう保障していくのかというご苦労が見えてまいります。

全体として、自己点検・評価が誠実になされ、今後の改善方策も実践的観点からまとめられており、改善への取組も概ね良好であることから、PDCAサイクルはうまく機能していると判断されます。なお、個別の評価項目へのコメントは以下のとおりです。

#### 〈教育課程・学習指導〉

- 従来同様、生徒、保護者ともに学校への満足度、教育課程、その内容に関する評価が高い点は高く評価できます。また多忙化する学校環境にあって、基礎学力の定着と発展的、応用的内容の充実の両面に対応するために、補習や分割授業の実施などの取組がなされている点も評価でき、今後一層の充実が望まれます。ただ教員へのアンケート結果にみられるように、「知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている」の項目への肯定的回答の割合が、昨年度より大幅に減少している点は気になるところです。学力格差の問題から、補習や分割授業の実施など、以前にはみられなかった授業形態の導入が求められていますが、そうした負担の増大もその原因の一つではないかと考えます。現在の教育資源だけでこうした問題に対応するには限界もあるため、この点に関しては何らかの人的・財政的支援が必要であると考えます。
- 高等部との連携に関しては、ここ数年のアンケート結果から、徐々にその意識が高まってきていることが理解されますが、まだ十分とはいえません。今後相互の人的交流をより一層進めることが必要であると考えます。

#### 〈生徒指導〉

- 生徒指導上の諸問題に関して、生徒、保護者の肯定的評価が概ね高いことは評価できます。ただし「生徒の問題行動に関する教員間の共通理解」に関して、昨年と比べ肯定的評価が大幅に減少している点は気がかりです。基本的な生活習慣の確立や問題行動への対応については、教員間でブレのないことが基本となります。そのためにも教員間での情報交換、情報共有、共通理解が欠かせません。クラスの増設に伴う教員数の増加や多忙化に伴う情報共有機会の設定の難しさなどの問題があるのですが、この点については今後更なる改善が望まれます。

#### 〈保健管理〉

- 健康診断、事後措置、怪我、急病発生時の迅速な対応などについては、生徒、保護者、教員ともに肯定的な回答が多く高く評価されます。しかし、ここ数年保健室来室者、特に心理的理由からの来室者が増えている点は少し気がかりです。原因は一概には言えませんが、その一つに「中1ギャップ」の問題が考えられます。小学校から中学校への校種間の移行がうまくいかず、登校を渋ったり、教室に入れなかったりする生徒が増えているという問題です。中学校に入ると、科目数が増え、中間・期末考査が導入されるなど勉強面での負担が増大するとともに、異なった小学校出身者との新たな関係づくりや部活等でのこれまでにない上下関係の体験など環境が大きく変化し、心理的負担が増大します。こうした変化にうまく対応できない場合には、不適応行動が顕在化しやすくなります。これが「中1ギャップ」です。こうした問題では、情報提供や情報共有を含め学校種間の緊密な連携が不可欠です。今後、児童・生徒間、また教員間での相互交流の機会をより多く設け、小学校（初等部）から中学校（中学部）への移行を円滑に進めることが必要ではないかと考えます。

### 〈保護者との連携〉

- P T Aとの協議会の開催、学校行事などでの連携、クラス担任との面談に関して保護者からは高い評価が示されており、連携がうまく進んでいることが窺え、大変評価できます。なお「教育内容についての意見交換」では昨年に比べ肯定的評価の割合がかなり減少しているようですが、クラス単位での懇談の場でこうした問題について意見を交換する機会を設けることで、より一層の連携が図られると考えます。

### 〈キリスト教主義教育の実践〉

- アンケートの集計結果から、生徒、保護者に建学の精神であるキリスト教主義教育への理解が深められていることがよく分かり、高く評価できます。その背景として、毎日の礼拝や聖書科の授業、P T A集会での礼拝や「聖書を学ぶ会」を通じての保護者への働きかけといった地道な努力が功を奏しているものと考えられます。ただし少し気になる点は、キリスト教主義教育の理念の共有とそれに基づく教育実践の展開に関して、教員間での肯定的評価が生徒や保護者に比べやや低いという点です。クラス増に伴い新任教員が増えているということもあるのですが、今後キリスト教主義教育への理解が一層進展することが期待されます。

### 〈特色ある教育の実践〉

- 礼拝や聖書科、読書、キャンプや体験学習、海外での語学研修など、中学部は従来から特色のある教育実践に取り組んでおり、こうした点は非常に高く評価できます。こうした特色ある実践が個別に取り組まれるだけでなく、本学院のめざす「”Mastery for Service”を体現する世界市民の育成」に向けて、有機的統合を図る方向で検討、実施されるならばさらに充実したものになるのではないかと期待されます。

全体として、5つの評価項目を設定し、継続して取り上げている点は、評価できます。このような評価を通じて、色々な評価項目の改善を進めていただくことを期待します。

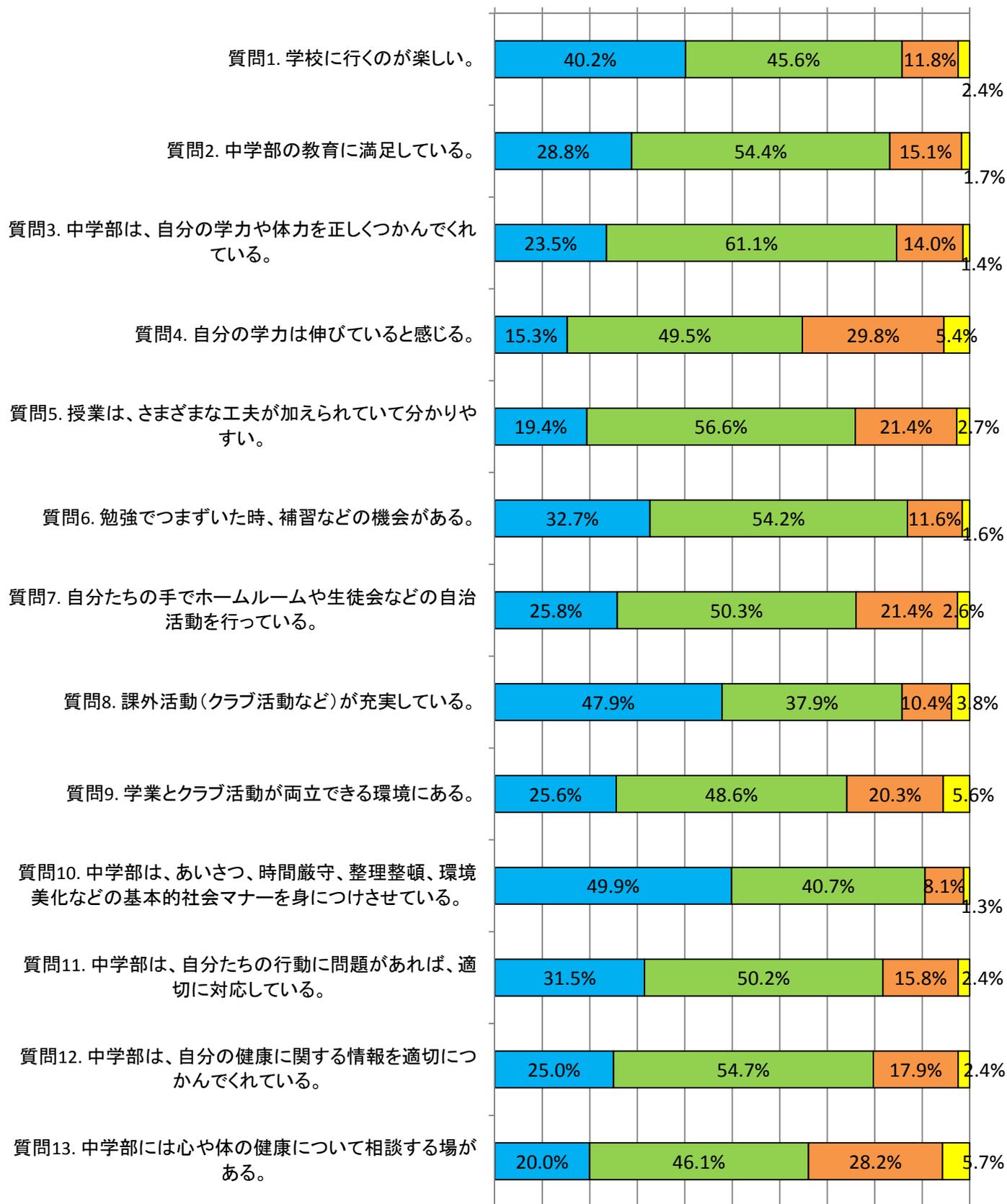
- 「学校が楽しい」、「中学部の教育に満足している」の評価が高く、全体としての中学部の教育が高く評価されていることを示しており、高く評価できます。
- 「教育課程についての教員間の共通理解と連携」については、教員の肯定的評価の割合が昨年度低下したが、約14%向上したことは評価できます。
- 「生徒の学力・体力の適格な把握」については、外部テスト導入によって他校との比較を通じてより客観的な学力の確認をし、アンケート調査結果では肯定的な回答が高いことは、評価できます。生徒のアンケート調査結果で、「自分の学力は伸びていると感じる。」のネガティブな回答が35.2%と高いので、なぜそのような結果になったかの分析を期待します。
- 生徒指導の「学業とクラブ活動の両立できる環境」の生徒のアンケート調査結果については、比較的高い割合(25.8%)でネガティブであり、そのような回答が出た要因の分析を期待します。
- 生徒指導の「基本的社会マナー」については、生徒の肯定的評価は高く、引き続き、取組を進めていただくことを期待します。
- 生徒指導の「自主自立の精神の育成」については、代議員会・各委員会活動を通じて生徒の自主自立の精神を育てておられることは、評価でき、自己評価がA+となっています。しかし、「ホームルームや生徒会活動などの自治活動」に対する生徒のアンケート調査結果は、ネガティブな割合が24%であり、分析を期待します。
- 生徒指導の「問題行動への対応」については、生徒の問題行動に対して「迅速・適切・誠実」で臨むことは重要です。引き続き生徒の問題行動に関する教員間の情報共有、生徒指導についての意思統一を達成し、対応していただくことを期待します。
- 保健管理の「心身の健康管理」については、生徒たちが相談しやすい環境を引き続き整えていくことを期待します。
- 保健管理の「怪我・急病発生時の対応」については、引き続き迅速で適切な対応していただくことを期待します。

- 保護者との連携は、「PTAとの協力」、「PTAとの協議会等」が非常に高く評価されており、この連携を継続していただくことを期待します。
- 「キリスト教主義教育の理念の共有」については、生徒と保護者の肯定的評価が高い一方「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している」の肯定的評価の割合が相対的に低いことを考え、引き続き、改善のための方策を実施していかれることが望まれます。「キリスト教主義教育の推進」については、アンケートを含む様々な観点から、高く評価されており、引き続き進めていただくことを期待します。
- 特色ある教育の実践の「英語・国語理解教育」に関する取組については、自己評価で示されているように相対的に評価は高くありません。このような結果の分析を継続して分析していただき、改善していただくことを期待します。
- 特色ある教育の実践の「キャンプ・体験的学習」については、教員・保護者・生徒ともに非常に高い肯定的評価であることは、非常に高く評価できます。今後とも、これらの取組を維持、引き続きプログラムの充実を図っていただくことを期待します。
- 特色ある教育の実践の「人権・平和教育」については、保護者と生徒の高い評価に比べ、教員の評価は低いです。教員の評価が低い理由を分析していただき、改善の方策を考えていただくことを期待します。

2016 年度学校評価

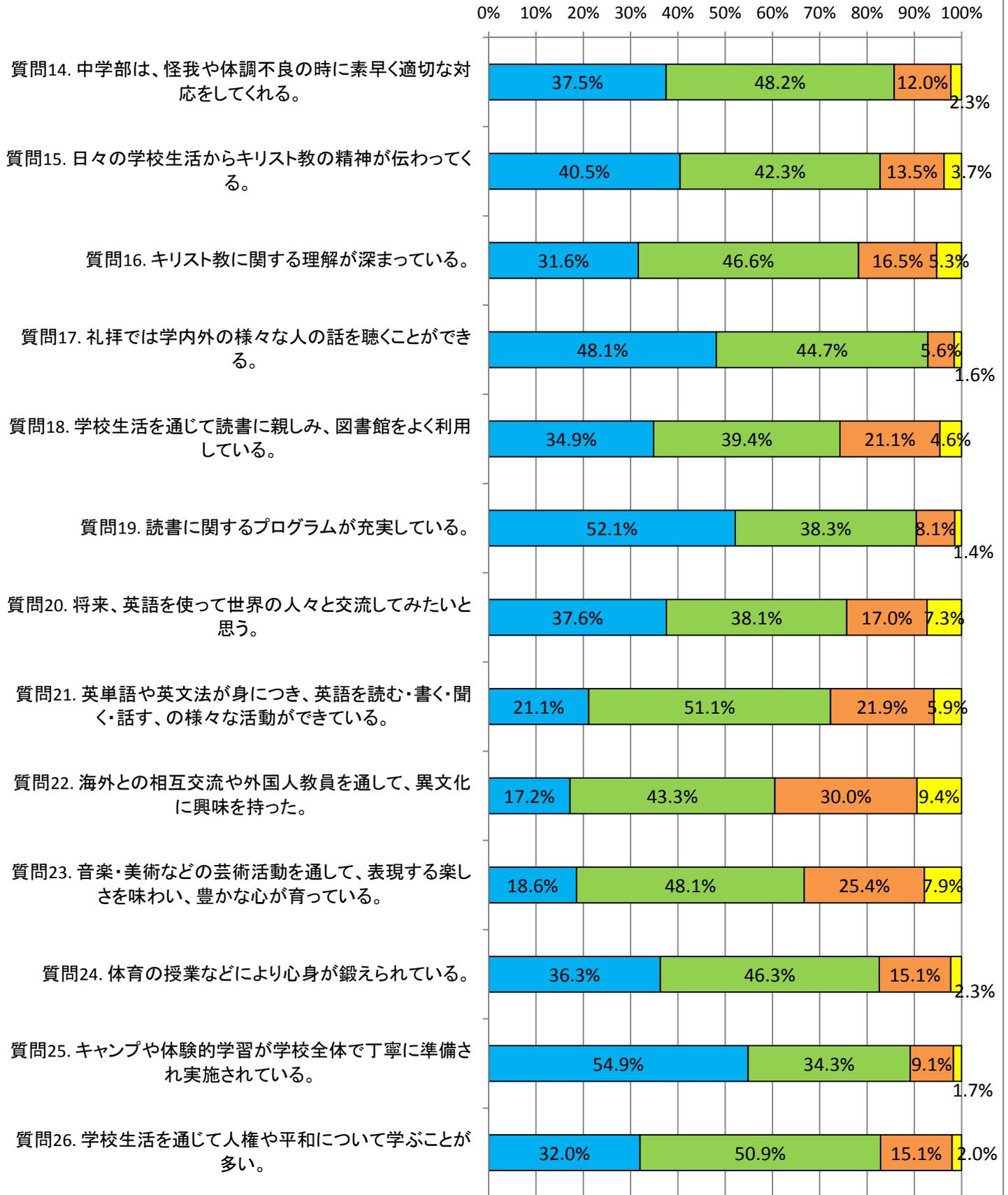
2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・生徒 質問1～13 (回収率 97.9% 702人/717人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

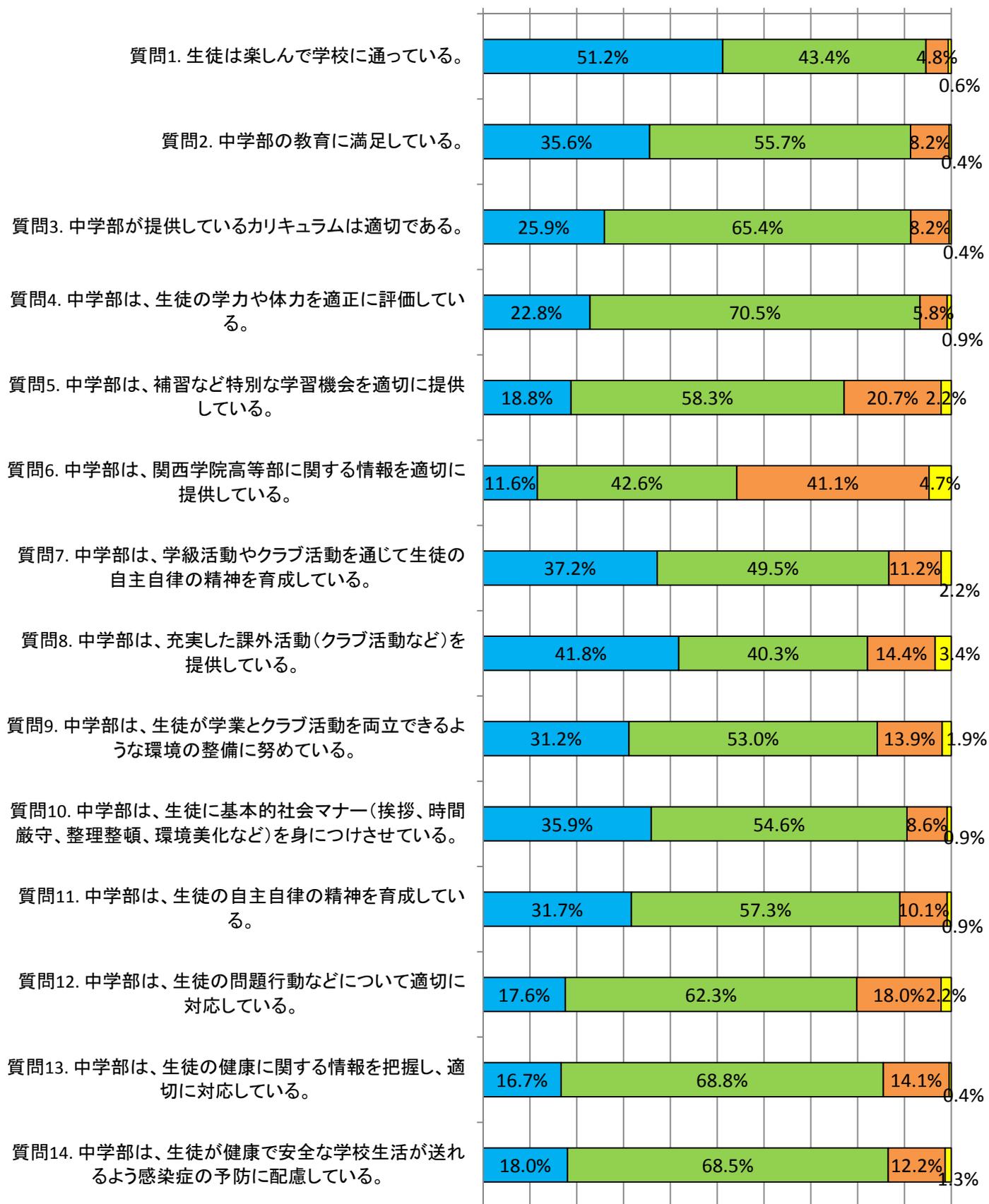
2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・生徒 質問14～26 (回収率 97.9% 702人/717人中)



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・保護者 質問1～14 (回収率 64.8% 465人/717人中)

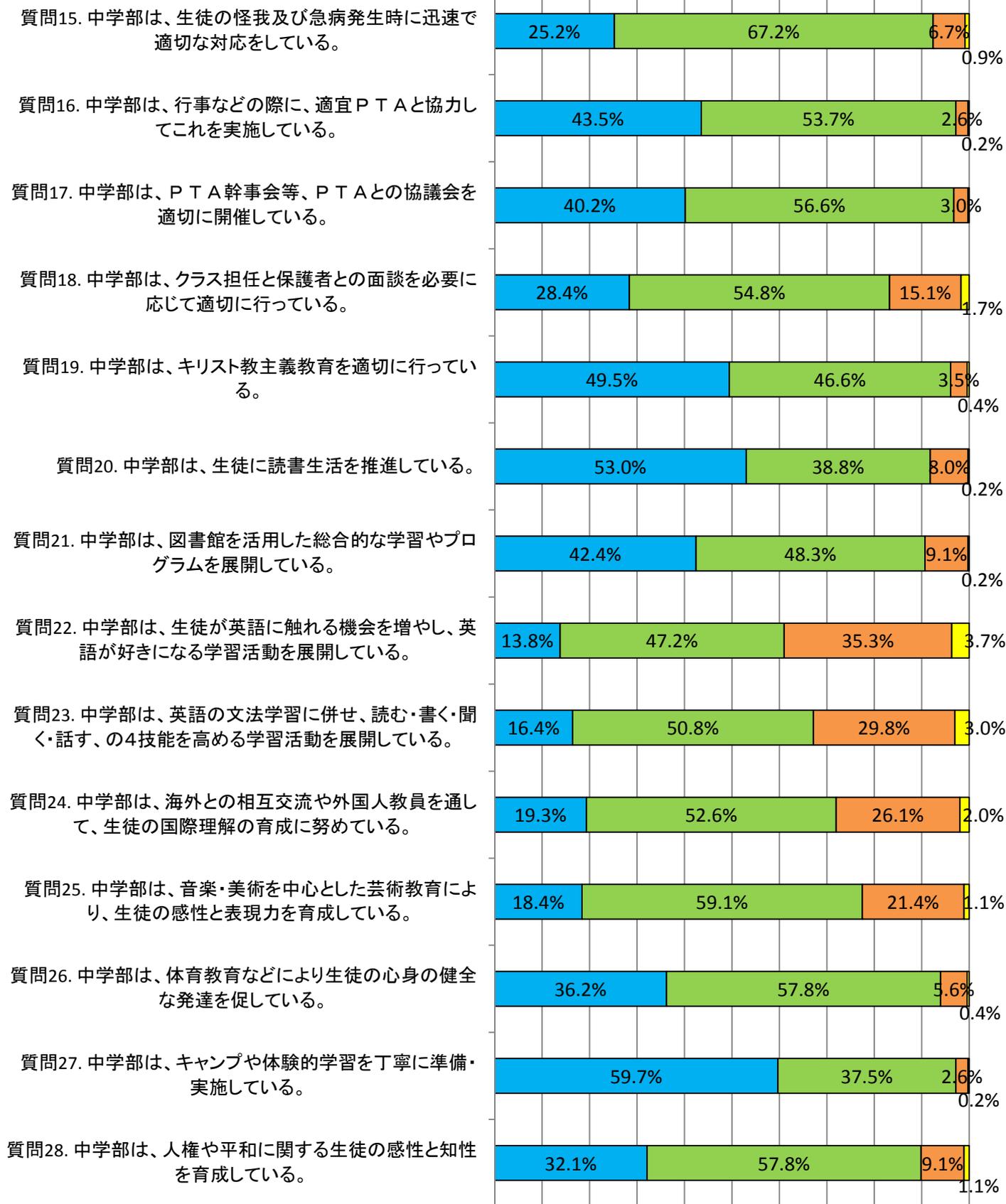
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・保護者 質問15～28 (回収率 64.8% 465人/717人中)

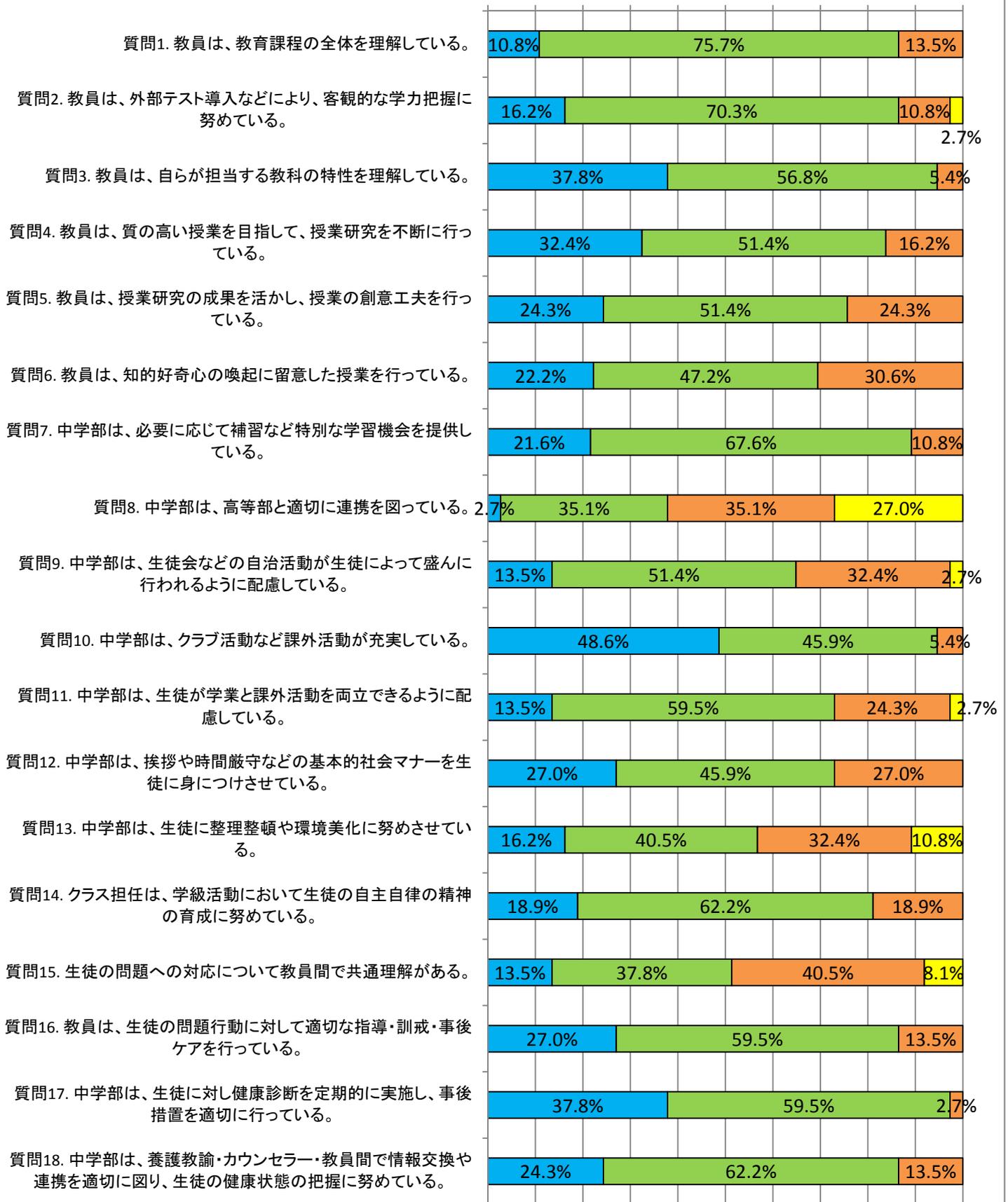
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強くそう思う ■ 回答番号2: どちらかといえばそう思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員 質問1～18 (回収率 100% 37人/37人中)

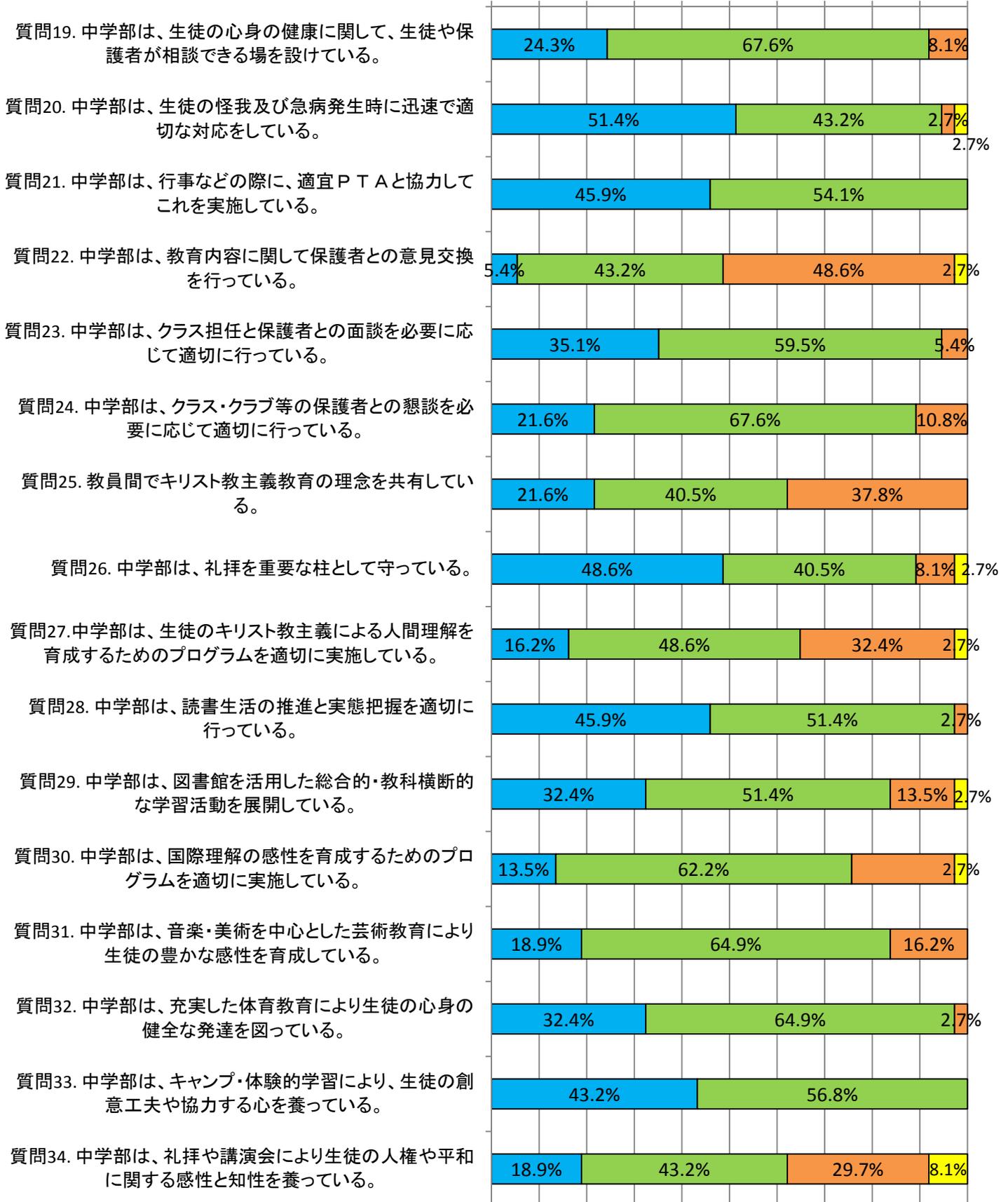
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったく思わない

2016年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員 質問19～34 (回収率 100% 37人/37人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえばそう思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない